

昨年夏は、西日本の平均気温が戦後で第一位の高温、東北地方の七月の降水量が第一位になるなど、極端な天候となりました。秋には台風による甚大な被害などがあり、穏やかな冬になって欲しいと願うばかりですが、気象庁によると、今年は「寒い冬」となるそうです。雪も多いのではないのでしょうか？

さて、「欲<sup>よく</sup>深<sup>ふ</sup>き 人<sup>ひと</sup>の心<sup>こころ</sup>と降る雪は 積<sup>つ</sup>もるにつけて 道<sup>みち</sup>を忘<sup>わす</sup>るる」という言葉があります。落語の『夢金（ゆめきん）』の冒頭で紹介されているのが有名ですが、昔からさまざまに引用されている言葉です。

雪が降り積もるにつれて、そこが歩く道なのか、畑や藪<sup>やぶ</sup>なのかどうかわからなくなるように、人の欲望も増えるにつれて道をあやまってしまう、といった意味でしょう。

人間の欲望は際限がありません。子どもの頃は使うお金が百円で満足していたのが、年<sup>とし</sup>を経るごとに増えてゆきましたよね。百円で始めは満足しても、次にあれも欲しいこれも欲しい、それにはもっとお金が必要となります。

仏教ではこれを“渴<sup>かわ</sup>く愛<sup>あい</sup>”と書いて『渴愛（かつあい）』といいます。喉がカラカラに渴いているときに海水を飲むと喉の渴きが倍増するということを表します。

ただ、この欲望は人間の生活を快適なものにする原動力ともなってきました。

例えば電話。はじめは離れた人と話すだけだったものが、文書や画像を送ることができるようになり、移動しながら話せる携帯電話ができ、今ではスマートフォンでどこでも文書や画像などを送ったりできるようになりました。次はどのようなものがでてくるのか、きりがありません。人間の尽きない欲望が、技術革新までしてゆく……。反面、どこにいても仕事に追いかけて心落ち着くことが無くなってしまったりしていませんか？ 常にメールをチェックしていて、前よりセカセカした印象はありませんか？

そんな日常から少しでも自分を取り戻すには、今の自分の生活がそのような際限の無い欲望の上に成り立っているものであるということを知ること、そのようなものにとられることを感じて、自らの生活を見つめ直すことなのだと思います。

日本では雪は冬に降り、積もっても必ず春には溶けます。雪で見えなくなっていた道も春には私たちに行き先を示してくれます。

積もってゆく雪に押しつぶされずに、春をむかえたいものです。